

2019年11月7日

東京都都市整備局市街地建築部長 殿

東京都鉄筋継手検査機関連絡協議会
会長 安藤 純二

施工計画報告書および施工結果報告書における
鉄筋継手の外観検査に関する記入欄追補について（再度要望）

平素は当協議会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、鉄筋継手検査機関登録制度が発足して4年が経過いたしました。この間、当協議会会員による検査実施事例から様々な問題点が顕在化してまいりました。

特に、建築物の試験及び検査に関する東京都取扱要綱第2条第5項第2号に基づく鉄筋継手の性能確認のための外観検査に関しましては、改めて工事監理者、工事施工者の更なる理解を要するものと憂慮しております。

当該規定においては、監理者や施工者が測定器具等の検査機器を用いて行うものを外観検査と見なし、それ以外は登録されている鉄筋継手検査機関が実施するべきものとされています。しかし、実態として、継手施工者が行った作業報告や記録のチェックのみで施工者が外観検査を100%行ったこととしている事例を散見いたします。

つきましては、施工計画報告書や施工結果報告書に外観検査の実施者を明記するべく所定欄を設けていただけますよう、ご検討をお願い申し上げます。

なお、たいへん僭越とは存じますが、記入欄の追加例を別紙のとおり添付いたしましたので、参考としてご高覧頂きたく、重ねてお願い申し上げます。

以上

記入欄追補例 1 施工計画報告書

様式1 その1

鉄筋使用材料及び施工										
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()
	使用径	D ~D		D ~D		D ~D		D ~D		D ~
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使用箇所								
		継手工法名(溶接材料)								
		継手施工会社(優良圧接業者)								
		S A 級 継 手				有 ・ 無				
		A 級 継 手		有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		
				A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	
		技量確認・施工前試験								
	冷間直角カッターの使用									
	試験・検査	外観検査(%)								
		引張試験のみ(箇所/ロット)								
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)								
		引張試験併用								
		引張試験機関名						都登録 第 号		
		非破壊検査機関名				検査者 資格		都登録 第 号		
		外観検査実施者		監理者・施工者・検査機関名		検査者 資格		都登録 第 号		
	梁貫通口補強	補強方法		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 在来工法 <input type="checkbox"/> 既製品 () <input type="checkbox"/> 無						
		構造検討		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無						
		使用部位								

(日本工業規格A列4番)

様式 5

施工計画に基づく結果確認											
コン ク	強度確認										
	かぶり厚さ管理										
鉄 筋 工 事	施 工	継手種類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)		
		使用箇所									
		継手工法名(溶接材料)	/								
		継手施工会社(優良圧接業者)									
		S A 級 継 手	/		有 ・ 無		/		/		
		A 級 継 手	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		/		
			A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	/		
		技量確認・施工前試験									
		冷間直角カッターの使用									
	試 験 ・ 検 査	外観検査(%)									
		引張試験のみ(箇所/ロット)	/								
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)	/								
		引張試験併用	/								
		引張試験機関名					都登録	第	号		
		非破壊検査機関名					検査者	資格	都登録	第	号
	外観検査実施者	監理者・施工者・検査機関名				検査者		資格	都登録	第	号
	不 具 合 部 の 処 置 方 法										
	コン ク リ ー ト 工 事										
鉄 筋 工 事											
そ の 他											

記入例①

様式 1 その 1

鉄筋使用材料及び施工										
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()
	使用径	D10 ~D16		D19 ~D25		D29 ~D32		D ~D		D ~
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使用箇所		基礎・柱主筋		基礎梁				
		継手工法名(溶接材料)		/		〇〇ジョイント				
		継手施工会社(優良圧接業者)		(株) □□圧接		〇〇(株)(講習済)				
		S A 級 継 手		/		有・ <input checked="" type="radio"/> 無				
		A 級 継 手		有・ <input checked="" type="radio"/> 無		<input checked="" type="radio"/> 有・無		有・無		
				A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	
		技量確認・施工前試験		無		有				
		冷間直角カッターの使用		有		有				
	試験・検査	外観検査(%)		100	100	100				
		引張試験のみ(箇所/ロット)		/		5/1	/			
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)		/		/		/		
		引張試験併用				有	無			
		引張試験機関名		(一財) 〇〇試験所 □□試験室				都登録		第試 A-〇〇-(×)号
		非破壊検査機関名						都登録		第 号
		外観検査実施者		監理者・ <input checked="" type="radio"/> 施工者・検査機関名 〇〇建設(株)				都登録		第 号
	梁貫通口補強	補強方法		■有		■在来工法		■既製品(〇〇工法、評定番号:)		□無
		構造検討		■有		□無				
使用部位		基礎梁: 既製品(〇〇工法) 最上階の梁: 在来工法								

(日本工業規格A列4番)

記入例②

様式 5

施 工 計 画 に 基 づ く 結 果 確 認									
コン ク リ ー ト	強 度 確 認		夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照						
	か ぶ り 厚 さ 管 理		コンクリート打設前に計測、不良箇所は打設前に修正確認						
鉄 筋 工 事	施 工	継 手 種 類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使 用 箇 所	基礎・柱主筋		基礎梁				スラブ筋
		継手工法名(溶接材料)	/		〇〇ジョイント				/
		継手施工会社(優良圧接業者)	(株) □□圧接		〇〇(株) 講習済				/
		S A 級 継 手	/		有・ 無		/		/
		A 級 継 手	有・ 無		有 ・無		有・無		/
			A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	/
		技 量 確 認 ・ 施 工 前 試 験	無	有	有				/
		冷 間 直 角 カ ッ タ ー の 使 用	有	有	/	/			/
	試 験 ・ 検 査	外 観 検 査 (%)	100	100	100				/
		引張試験のみ(箇所/ロット)	/		/		/		/
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)	/		/		/		/
		引 張 試 験 併 用	/		/		/		/
		引 張 試 験 機 関 名	(一財) 〇〇試験所□□試験室				都登録	第試 A-〇〇-(×)号	
		非 破 壊 検 査 機 関 名					都登録	第	号
	外 観 検 査 実 施 者	監理者・ 施工者 ・検査機関名		〇〇建設(株)		都登録	第	号	
				検査者 □□ □□		資格	一級施工管理技士		
不 具 合 部 の 処 置 方 法									
コン ク リ ー ト 工 事	夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照。22階で発生したジャンカ部については表層部をはつとり樹脂モルタルにより要領どおり補修をおこなった。								
鉄 筋 工 事	B1階柱部における圧接部破損以降は再発防止策の実施もあり不合格の発生はない。かぶり厚さ、ピッチ不良等の不具合については、配筋検査時に確実なチェックを行い、修正の確認をしている。								
そ 他	高強度コンクリートの構造体の強度判定にあたって、工場、使用セメント、管理材齢、使用期間その他さまざまな要素の によって1つの設計基準強度に対して数種類の判定基準強度が存在するため、まちがいをさけるように記号化して、元 請けの施工管理者、代行業者、試験機関が共通の情報テーブルを持つように工夫した。								

記入例③

様式 1 その1

鉄筋使用材料及び施工											
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()	
	使用径	D10 ~D16		D19 ~D25		D29 ~D32		D ~D		D ~	
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)	
		使用箇所		基礎・柱主筋		基礎梁					
		継手工法名(溶接材料)		/		〇〇ジョイント					
		継手施工会社(優良圧接業者)		(株) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 圧接		〇〇(株)(講習済)					
		S A 級 継 手		/		有・ <input checked="" type="radio"/> 無		/			
		A 級 継 手		有・ <input checked="" type="radio"/> 無		<input checked="" type="radio"/> 有・無		有・無			
				A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	/	
		技量確認・施工前試験		無		無		有			/
		冷間直角カッターの使用		有		有		/			/
	外観検査(%)		100		100		100				
	引張試験のみ(箇所/ロット)		/		5/1		/			/	
	超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)		/		/		/			/	
	引張試験併用		/		有		無			/	
	引張試験機関名		(一財) 〇〇試験所 <input type="checkbox"/> 試験室				都登録		第試 A-〇〇-(×)号		
	非破壊検査機関名						都登録		第 号		
	外観検査実施者		<input checked="" type="radio"/> 監理者・施工者・検査機関名 <input type="checkbox"/> 設計(株)				都登録		第 号		
			検査者 〇〇 〇〇				資格		一級建築士		
	補強方法		<input checked="" type="checkbox"/> 有		<input checked="" type="checkbox"/> 在来工法		<input checked="" type="checkbox"/> 既製品(〇〇工法、評定番号:)		<input type="checkbox"/> 無		
構造検討		<input checked="" type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 無							
使用部位				基礎梁: 既製品(〇〇工法)				最上階の梁: 在来工法			

(日本工業規格A列4番)

記入例④

様式 5

施 工 計 画 に 基 づ く 結 果 確 認									
コン ク リ ー ト	強 度 確 認		夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照						
	か ぶ り 厚 さ 管 理		コンクリート打設前に計測、不良箇所は打設前に修正確認						
鉄 筋 工 事	施 工	継 手 種 類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使 用 箇 所	基礎・柱主筋		基礎梁				スラブ筋
		継手工法名(溶接材料)	/		〇〇ジョイント				/
		継手施工会社(優良圧接業者)	(株) □□圧接		〇〇(株) 講習済				/
		S A 級 継 手	/		有 ・ 無		/		/
		A 級 継 手	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		/
			A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	/
		技 量 確 認 ・ 施 工 前 試 験	無	有	有				/
		冷 間 直 角 カ ッ タ ー の 使 用	有	有	/	/			/
	試 験 ・ 検 査	外 観 検 査 (%)	100	100	100				/
		引張試験のみ(箇所/ロット)	/		/		/		/
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)	/		/		/		/
		引 張 試 験 併 用	/		/		/		/
		引 張 試 験 機 関 名	(一財) 〇〇試験所 □□試験室				都登録	第試 A-〇〇-(×)号	
		非 破 壊 検 査 機 関 名					都登録	第 号	
外 観 検 査 実 施 者	監理者・施工者・検査機関名		□□設計(株)		都登録	第 号			
			検査者 〇〇 〇〇		資格	一級施工管理技士			
不 具 合 部 の 処 置 方 法									
コン ク リ ー ト 工 事	夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照。22階で発生したジャンカ部については表層部をはつとり樹脂モルタルにより要領どおり補修をおこなった。								
鉄 筋 工 事	B1階柱部における圧接部破損以降は再発防止策の実施もあり不合格の発生はない。かぶり厚さ、ピッチ不良等の不具合については、配筋検査時に確実なチェックを行い、修正の確認をしている。								
そ 他	高強度コンクリートの構造体の強度判定にあたって、工場、使用セメント、管理材齢、使用期間その他さまざまな要素の によって1つの設計基準強度に対して数種類の判定基準強度が存在するため、まちがいをさけるように記号化して、元 請けの施工管理者、代行業者、試験機関が共通の情報テーブルを持つように工夫した。								

記入例⑤

様式 1 その1

鉄筋使用材料及び施工										
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()
	使用径	D10 ~D16		D19 ~D25		D29 ~D32		D ~D		D ~
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使用箇所		基礎・柱主筋		基礎梁				
		継手工法名(溶接材料)		/		〇〇ジョイント				
		継手施工会社(優良圧接業者)				(株) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 圧接		〇〇(株)(講習済)		
		S A 級 継 手		/		有・ <input checked="" type="radio"/> 無		/		
		A 級 継 手				有・ <input checked="" type="radio"/> 無				有・無
				A 級	その他	S A, A 級	その他	A 級	その他	
		技量確認・施工前試験		無		無		有		
		冷間直角カッターの使用		有		有		/		
	外観検査(%)		100		100		100			
	引張試験のみ(箇所/ロット)		/		5/1		/			
	超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)		/		/		/			
	引張試験併用				有		無			
	引張試験機関名		(一財) 〇〇試験所 <input type="checkbox"/> 試験室				都登録		第試 A-〇〇-(×)号	
	非破壊検査機関名						都登録		第 号	
	外観検査実施者		監理者・施工者・検査機関名 (株) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 検査				都登録		第 14 - (5) - 〇〇号 検査者 〇〇 〇〇 資格 鉄筋継手部検査技術者 3 種	
	補強方法		<input checked="" type="checkbox"/> 有		<input checked="" type="checkbox"/> 在来工法		<input checked="" type="checkbox"/> 既製品 (〇〇工法、評定番号:)		<input type="checkbox"/> 無	
	構造検討		<input checked="" type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 無					
	使用部位		基礎梁: 既製品 (〇〇工法)				最上階の梁: 在来工法			

(日本工業規格A列4番)

記入例⑥

様式 5

施 工 計 画 に 基 づ く 結 果 確 認									
コン ク リ ー ト	強 度 確 認		夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照						
	か ぶ り 厚 さ 管 理		コンクリート打設前に計測、不良箇所は打設前に修正確認						
鉄 筋 工 事	施 工	継 手 種 類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使 用 箇 所	基礎・柱主筋		基礎梁				スラブ筋
		継手工法名(溶接材料)	/		〇〇ジョイント				/
		継手施工会社(優良圧接業者)	(株) □□圧接		〇〇(株) 講習済				/
		S A 級 継 手	/		有 ・ 無		/		/
		A 級 継 手	有 ・ 無		有 ・ 無		有 ・ 無		/
			A 級	その他	SA, A 級	その他	A 級	その他	/
		技 量 確 認 ・ 施 工 前 試 験	無	有	有				/
		冷 間 直 角 カ ッ タ ー の 使 用	有	有	/	/			/
	試 験 ・ 検 査	外 観 検 査 (%)	100	100	100				/
		引張試験のみ(箇所/ロット)	/		/		/		/
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)	/		/		/		/
		引 張 試 験 併 用	/		/		/		/
		引 張 試 験 機 関 名	(一財) 〇〇試験所 □ □ 試験室				都登録	第試 A-〇〇-(×)号	
		非 破 壊 検 査 機 関 名					都登録	第 号	
	外 観 検 査 実 施 者	監理者・施工者・検査機関名		(株) □□検査		都登録	第 14 - (5) - 〇〇号	検査者 〇〇 〇〇 資格 鉄筋継手部検査技術者 3 種	
	不 具 合 部 の 処 置 方 法								
コン ク リ ー ト 工 事	夏季に打設したコンクリートの一部において不合格が生じた。詳細は別紙参照。22 階で発生したジャンカ部については表層部をはつとり樹脂モルタルにより要領どおり補修をおこなった。								
鉄 筋 工 事	B1 階柱部における圧接部破損以降は再発防止策の実施もあり不合格の発生はない。かぶり厚さ、ピッチ不良等の不具合については、配筋検査時に確実なチェックを行い、修正の確認をしている。								
そ 他	高強度コンクリートの構造体の強度判定にあたって、工場、使用セメント、管理材齢、使用期間その他さまざまな要素の によって1つの設計基準強度に対して数種類の判定基準強度が存在するため、まちがいをさけるように記号化して、元 請けの施工管理者、代行業者、試験機関が共通の情報テーブルを持つように工夫した。								